

ハイマート Heimat

ぐんま日独協会 会報 62号

2023 年 9 月 5 日

発行者 鈴木 克彬

発行所 ぐんま日独協会

〒371-0105

群馬県前橋市富士見町石井 2445-219

電話:027-288-4297

E-mail: info@jdg-gunma.jp

ホームページ:jdg-gunma.jp/



ローテンブルクのクリスマスマーケット

1. 会長のことば	1
2. 對馬良一様追悼文	3
3. 故島田卓爾副会長を偲んで	7
4. 事務局より(ドイツフェスティバルについて・新会員紹介)	9
5. フェッセン市との「オンライン姉妹都市交流会」	13
6. 草津町とビーティヒハイム・ビッシンゲン市の姉妹都市交流について	15
7. 西ドイツ Hamburg 駐在体験記(その1)	18
8. 日本百名山 独訳 - 連載11	22
9. デザイナー修行奮闘記 - 連載20	26
10. お知らせあれこれ(大使館・全国日独協会などから)	29

1. 『ドイツフェスティバルinぐんま』誕生の軌跡

・・・日本におけるドイツ年を記念して・・・

会長 鈴木克彬

2004(平成16)年春、神戸で開催された全国日独協会連合会総会に、当時事務局長であった鈴木は、故平形義人会長のお伴で、その総会に出席させていただきました。

その総会の席上、当時のシュミエーグロ駐日ドイツ大使から「来年2005年は、日本におけるドイツ年という記念すべき年となっている。そのため東京や大阪等の大都市だけでなく、地方の都市(協会)でもこのイベントに協力して欲しい」とのご要望がありました。一方メインテーマは、当時、多くの日本人が抱いていた『環境先進国のドイツから多くのことを学びたい』という強い思いから環境問題ということになり、ドイツ側で日本語版の環境パネルをドイツ国内で作り、そのパネルを希望する協会(都市)に順次、巡回展示することも決まりました。



一方地元群馬県側も、当時の群馬県総務部国際課西澤課長をはじめ関係者各位の後押し・ご尽力をいただき、県庁ホール南北全面貸し切りで、2005(平成17)年7月12日からの7日間の長期イベントを開催、延べ3万人以上の方々のご来場を得ました。

内容としては、沼田市・草津町等のドイツとの姉妹都市提携の紹介、ベルツ博士・ブルーノタウト氏等群馬と縁のあったドイツ人の紹介、ドイツパン・ドイツワイン・ドイツビール・ドイツソーセージ・ドイツ紅茶・ドイツ人マイスター制作のアクセサリー・ドイツ木製遊具等々の販売、それにドイツ車の展示。メルクリン列車の実動等々、それに会員手製のテディーベア展示、朔太郎ジュニアオーケストラの演奏、前橋市フォークダンス協会のドイツの踊り実演等々、協会関係者は、来客の駐車場確保に汗をかく程、連日盛況でした。

勿論ドイツ大使も来県され、小寺知事、木村元駐独大使等々多数のご来賓を迎え、開会セレモニーも盛会に行いました。

その後は、隔年開催と決め、毎回パネル展のテーマを討議、過去8回開催してきました。しかし今般のコロナ禍により、隔年開催が不可能となり、今般第9回目の開催は、やや小規模にして、本年10月会員の尽力及び関係者のご協力を得て開催することと致しました。

なお各回のフェスティバルのパネル展のテーマは、本協会のホームページをご参照ください。

長年に亘る関係者のご尽力に対し厚くお礼を申し上げ、経緯の報告と致します。

下記の写真は、初回のドイツフェスティバルについて『グラフぐんま』にて掲載された写真です。



【見開き2ページに紹介されています】

A ドイツ製環境パネル裏話

ドイツ本国外務省から日本語版の環境パネル作成を依頼されたオスナブリュック市の Ecos社(夫人が日本人)から、パネルテーマ等の検討、制作準備のため、メームケン社長夫妻が来日されました。

その際、当時、群馬県環境アドバイザー連絡協議会の代表をしていた私(鈴木)は、ドイツ大使館文化部のゲーリック課長からの依頼で、その打ち合わせに参加することになってしまいました。4~5回の打ち合わせをしたでしょうか、とにかく25枚の日本語版の環境パネルが出来上がりました。そのパネルは群馬県をスタートとして、要望のあった都市(協会)に順次送付、巡回され、ドイツの環境政策の紹介になったと思われます。



【パネルをまとめた冊子】

B ドイツフェスティバル開催に対する群馬県の姿勢

当フェスティバル開催を喜んでいただけたのは、確かようです。一階ホール両面を、一週間開けて下さり、全庁挙げて協力してくださいました。当時の知事、総務部長、国際課長さん方には今でも感謝の気持ちで一杯です。ドイツの後、ロシア・フランス・台湾・ベトナム等々のフェスティバルが開催されましたが、ドイツが最初であったことは事実です。

そうそう、ドイツビール、ドイツワイン等のアルコール類はその会場では、絶対に飲ませないでね・・・と県庁側から、強く念を押されたことを今でもはっきりと覚えています。

C ドイツ車展示は、上毛新聞社の口添え、援助のお蔭です。

過去8回、すべてのイベントで、ベンツ、BMW、ワーゲン等、ドイツ車が展示されていますが、この展示はすべて、上毛新聞社の方のご厚意、ご紹介で生まれたものです。展示場でベンツ等の運転席に座って、感無量のお顔をされている方々を拝見すると、何か私もうれしくなった気分になるから不思議です。

D 初回のドイツパンは、曾我製粉製

当時ぐんま日独協役員でもあった曾我隆一曾我製粉社長は、製粉業だけでなく、自社製の粉を使ってドイツパンを作りたいと、もともとお考えがあったのだと思います。

そして、実際に曾我製粉でドイツパンを焼き、提供して下さり、販売。しかし来場されたお客様が余りにも多すぎたのです。また評判が良すぎたのです。すぐに売り切れ、従業員の方々が、くたくたになってしまわれたようです。それだけドイツパンを作るのには、手間がかかるのですね・勉強になりました。今日でも曾我隆一社長には感謝の気持ちで一杯です。

E その他

その年、2005(平成17)年は、忙しい年でした。7月のドイツフェスティバルの他に9月に[ドイツ大使館中央ホールでのぐんま展]、展示内容は群馬と係わりがあるベルツ博士と建築家ブルーノ・タウト氏に関する資料と写真が中心でした。大変な評判で、会場には中曽根康弘元総理もお見えになりました。11月には草津町の中沢ビレッジで、[全国日独協会連合会の全国総会]を開催しました。

参加者は駐日大使以下多くのドイツ大使館員、丁度日本旅行中のベルリン独日協会員、全国の日独協会連合会の役員の方々、全国の大学生約50名、その他地元ぐんま日独協会員等々、総勢250名参加の2泊3日の大総会でした。

2. 對馬 良一様 追悼文

(令和 5 年 5 月 12 日、ご自宅において、ご遺影、ご位牌を前に謹読)

ぐんま日独協会理事 高野 誠・高野 広美

對馬良一様、ぐんま日独協会の高野誠、高野広美でございます。本日もこれまで通り對馬さんと呼ばせてください。對馬さん、對馬さんのご逝去の報に接し、お世話になった者として是非とも對馬さんの御霊の前で申し上げたいことがあり、本日、ご自宅にうかがいました。

私たちが對馬さんと初めてお会いしたのは、約 20 年前に群馬県庁において開催された、ぐんま日独協会主催の「ドイツフェスティバル in ぐんま」の会場においてでした。

数々のパネル展示を前に、對馬さんは来場者の 1 人に過ぎなかった私たちに対して 1 つひとつ丁寧に説明してくれました。ドイツに興味があった私たちは、對馬さんのお話を通じて日独友好のために精力的に活動している「ぐんま日独協会」の存在を知り、間もなく会員になったのです。對馬さんとの出会いがなければ、ぐんま日独協会はもちろん、日独友好に携わる多くの日本人、ドイツ人との出会いもあり得ませんでした。

それから 20 年の歳月が流れました。この 20 年間、おかげさまで私たちはぐんま日独協会の様々なイベントに参加させていただきました。2 年おきに開催される「ドイツフェスティバル in ぐんま」のお手伝い、毎月恒例となったドイツ人ゲストと会員の交流の場である「ドイツサロン」、「ドイツ音楽の集い」、「クリスマス会」、「新年会」、ドイツからの訪問団を迎えての歓迎会など、本当にたくさんの出来事がありました。對馬さんは、ユーモアあふれるお人柄やお得意の手品を披露されて、その場を盛り上げてくれました。對馬さん、本当に楽しい、貴重な、得難い時間を何度も何度も、繰り返し繰り返し、創り出していただき、ありがとうございました。對馬さんに創り出していただいた時間は、どれも忘れ得ぬ思い出として私たちの心に刻まれています。

中でも 2011 年(平成 23 年)4 月、群馬県嬬恋村の「ホテルグリーンプラザ軽井沢」において開かれたドイツからの訪問団を歓迎してのパーティーは忘れることが出来ません。

日独修好 150 周年を祝うため来日したドイツの方々を迎えての歓迎パーティーでした。しかしながら、このパーティーはただならぬ雰囲気の中で挙行されたものでした。直前の 3 月 11 日には「東日本大震災」が起こり、地震や津波被害により、あまたの人命が失われました。追い打ちをかけるように福島第一原子力発電所の原子炉建屋が爆発し、放射能汚染が拡大するなど、わが国は有史以来、未曾有の危機の真っ只中にありました。「放射能汚染におののく日本。日本の半分以上が居住不可能になる。」などと報じる欧米のマスメディアもありました。放射能が東京にまで降り注ぐ恐れがあるとして、東京のドイツ大使館は、大阪の領事館にその機能を移転しました。「東京ですら危ない。ましてやフクシマのすぐ隣の群馬などとても危なくて行けない。」こう考えるドイツ人もたくさんいました。想定をはるかに超えた甚大な被害の前に、日本中が自粛ムードに包まれていました。日本各地にある日独協会のほとんどがドイツ人訪問団の受け入れを断念し、歓迎行事の中止を余儀なくされました。しかしながら、對馬さんは日本側の窓口として「フクシマの原発事故にもかかわらず、群馬では平常通りの生活を送っている。ぐんま日独協会は歓迎行事を予定通り行うべく準備を進めている。こういう時だからこそ来てほしい。」とドイツ側に回答し、来日を促したのです。

對馬さん、對馬さんは当時、欧米の航空会社が放射能汚染を恐れて成田空港への乗り入れを中止していたため、関西国際空港まで出向き、ドイツからの訪問団を出迎えました。そしてドイツの方々を東京、横浜、鎌倉、川越に案内した後、群馬まで引き連れてきたのです。

「ツシマがいるから来た」、私たちは「ホテルグリーンプラザ軽井沢」でドイツの方々が對馬さんと固い握手を交わした上、抱き合い、記念写真に収まる光景を目の当たりにして、對馬さんがいかにドイツの方々から信頼され、固い絆で結ばれているかを、しみじみと感じたのであります。

当初、100 人程度が参加する予定だったドイツ人訪問団は二十数名に激減しました。しかしながら、この二十数名のドイツの方々に、マスコミというフィルターを通じてではなく、ありのままの、生の日本を見てもらったことは、日独友好はもとより、誇張されたマスコミ報道や放射能汚染による風評被害を補正する上で絶大な意義があったものと確信しています。当時の對馬さんの断固とした決断、毅然とした行動、ご尽力に対し、改めて心から敬意を表します。

對馬さん、對馬さんは若かりし頃、北海道の「大夕張炭鉱」で働いておられました。戦争の傷跡が色濃く残る昭和 20 年代から 30 年代初め、わが国の復興は基幹産業の 1 つである石炭産業の復活にかかっていました。時代の求めに応え、對馬さんをご両親に内緒でドイツ派遣社員の選抜試験を受けられ、見事合格されました。對馬さんは三菱鉱業の期待を一身に背負い、選拔された若手従業員の一人として掘削技術の先進国であるドイツへ渡りました。当時 23 歳、航空路がまだ十分に発達していない時代、見えない目で對馬さんを見つめて涙するお母様、5 人の弟や妹を日本に残してのドイツ行きは一大決心であったことでしょう。弟さんの「兄貴はドイツに行くべきだ。お母さんの世話は俺たちがすべてやる」、このひと言で家族会議の大勢が決したと聞いています。

昭和 33 年 1 月 15 日、厳しき寒さが続き雪が降り積もっていたこの日、ハンカチを握りしめたお母様、ご家族、ご親戚、三菱鉱業の大勢の社員ら 300 人を超える人々が見送る中、時ならずして湧き起こった「對馬君万歳!」との大歓呼の声に送られ、午後 1 時 13 分発の汽車で大夕張駅を後にされました。

「国破れても技術あり。」、第二次世界大戦に敗れ、国土は荒廃の極みに達してもドイツの技術は健在でした。對馬さんは現地でドイツ語や炭鉱用語を猛勉強された上、3 年間にわたってドイツの優れた掘削技術をしっかりと身に付けられ、ベルリンの壁が築かれる前に日本に帰国されました。帰国後は、最新の機械を駆使しての石炭増産、日本経済の復活、ひいては日本国の復興に奮闘努力されました。

對馬さんは、敗戦国の日本から同じ敗戦国であるドイツへ渡り、日独両国の復興に力を尽くされたのです。当時の経営者の先見の明もさることながら、無条件降伏後のドイツへ渡るという驚くべき決断をされた對馬さん、私はほかにこのような例を知りません。對馬さんは他に類例を見ない極めて稀なご経験の持ち主でありました。日本、そしてドイツをこよなく愛された對馬さん、「Deutschland ist meine zweite Heimat.(ドイツは、私の第二のふるさとである)」、對馬さんが折に触れ語っていたこの言葉は、そのお声とともに私たちの脳裏にこだましています。

過ぎ去りし日、私たちは對馬さんから滞在していたドイツ西部・ルール地方の炭鉱都市であるゲルゼンキルヒェンでの日々を記録した写真集を見せてもらったことがあります。その際、「ヤプセ」と罵られ、馬鹿にされながらも「なにくそ」の精神をもってドイツ人を投げ飛ばすなど、けんかをしたエピソードもうかがいました。世界のどこにしようとも、臆することなく日本人として言うべきことは堂々と主張して信頼を得る、そんな真の国際人としての姿を對馬さんから垣間見たような気がします。

對馬さん、私たちが最後に對馬さんとお会いしたのは 2019 年(令和元年)11 月 9 日(土)のドイツサロンの場でした。生後 7 か月の娘を連れて参加しました。2 か月後、中華人民共和国を発生源とする新型コロナウイルスが全世界へと拡散し、コロナ禍が全地球を覆いました。ドイツサロンをはじめ、あらゆるイベントが中止になったり、オンラインでの開催を余儀なくされました。3 年が経ち、ようやくかつての日常生活が戻りつつあり、極めて近い将来、ドイツサロンで對馬さんにお目にかかれるだろうと感じていた矢先、ご逝去という信じ難い悲報に接しました。まだまだ對馬さんから聞きたいことがたくさんありました。お話ししたいことが山ほどありました。聞いてほしいことがいっぱいありました。對馬さんも、いつものメンバーと会うのをきっと楽しみにしていたことと思います。それがもはや叶わないとは、あれが最後になろうとは、残念無念でなりません。對馬さんのいない日独協会には、例えようもない寂寥感が漂っています。

私たちは、身は灰燼に帰しても心は残ると確信しています。住む世界が異なってしまった今、もはや對馬さんとお話することは叶いませんが、私たちは「ドイツサロン」をはじめ、ドイツに関するあらゆるイベントには、いつも對馬さんがそばにいて、見守ってくれていると固く信じております。

對馬さんのご逝去の知らせを受け、「ドイツ連邦共和国およびドイツ国民を代表して駐日ドイツ大使から追悼文が寄せられています。ドイツ大使は追悼文の中で「日独友好に絶え間なく貢献された對馬様のお姿を決して忘れません。大使館主催の絵画コンテスト『わたしのドイツ』への応募を毎年、群馬県の子供たちに呼びかけるなど、若い世代への橋渡しもされました。」と深甚なる感謝の言葉とともに、哀悼の意を表しています。日本とドイツのたくさんの人々、友人が對馬さんのご逝去を悼んでいるのです。

對馬さん、對馬さんは戦後間もないころ、ドイツの炭鉱において最先進技術を習得され、余すところなく日本に持ち帰られ日本経済の屋台骨であった石炭産業の復活・発展に力を尽くされました。日独両国の戦後復興と国際的地位向上のため奮励努力されました。定年退職された後は、「ぐんま日独協会」の立ち上げに携わり、副会長として設立以来、30 年以上の永きにわたり同協会の発展にご尽力されました。さらには、津軽三味線を奏でる一団とともにドイツ各地で演奏活動を行うなど、日本文化の紹介・発信にも多大な貢献をされました。本当に生き生きとした「一億総活躍社会」のお手本のような人生であらせられました。

對馬さん、對馬さんのご逝去の知らせを受け、私たちは 2011 年(平成 23 年)9 月に開催された「第 4 回ドイツフェスティバル in ぐんま」の動画を見直しました。ドイツ大使館の首席公使をお迎えしての群馬県庁でのオープニングイベント、そこにはスーツにネクタイを締め背筋を伸ばして起立し、式典の進行を静かに見守る對馬さんのお姿がありました。80 歳を目前に控えても、かくしゃくとして精力的に活動されていた對馬さん、私たちもかくありたいと願わずにはられません。

對馬さん、令和 5 年度ぐんま日独協会総会において、満場一致の下、對馬さんを名誉理事に推挙することが決定されました。對馬さんは、これからもずっとずっとぐんま日独協会の一員なのです。私たちと一緒になのです。ぐんま日独協会の名誉理事、對馬良一様、これからも私たちを見守っててください。

對馬良一様、人生の最後の瞬間まで日本とドイツのために心血を注がれました。実にご立派な人生であらせられました。誠に堂々たる見事な人生であらせられました。ご両親に授かった、かけがえのない、尊い人生を生き抜いたことをきっと誇らしく報告されていることでしょう。

對馬さん、これから奥様とご一緒に、たくさんのご親族がお待ちのふるさと北海道、大夕張の地に向かわれると伺いました。お優しい奥様にいざなわれ、懐かしい人々との再会を果たされることでしょう。成長や苦楽を見守ってきた大夕張の自然に抱かれながら思い出の場所をたどる、きっと良き旅となることでしょう。

對馬良一様、名残は尽きませんが、本当に長い間、大変お世話になりました。ここに謹んで心からの感謝を申し上げ、追悼の言葉とさせていただきます。ありがとうございました。

「追記：奥様によれば、對馬良一様はスーツ姿、胸には日独協会のバッジを身に付けられ旅立たれたとのことです。」



2011年(平成23年)4月、ホテルグリーンプラザ軽井沢においてドイツからの訪問団の方々と共に、最前列の右端が對馬様



2019年11月4日大使館絵画展オープンデー
在りし日の對馬様とイナ・レーベル大使(当時)

3. 故島田卓爾副会長を偲んで

ぐんま日独協会理事 澤田 まゆみ

故島田卓爾副会長(2022年11月18日ご逝去)は、1933(昭和8)年旧子持村に生まれ、陸上自衛官を経て子持村議会議員・村長を務められました。2005(平成17)年からは渋川市にある児童養護施設「子持山学園」の理事長でもありました。

20年間保育士を養成しており、私の教え子も何人かが「子持山学園」に実習や就職先としてもお世話になっています。時折は島田さん自らに新島短大にお越しいただき、施設の現状や実習の実施に関する情報交換もさせていただいたりもしました。

学実習先にはわれわれ教員が巡回指導やご挨拶にまわるのですが、何故か私はなかなか「子持山学園」の担当とならずに2022(令和4)年に勤務17年目を迎えていました。そしてその夏、実習で「子持山学園」にお世話になったある学生は、「子持山学園」への就職を決めたというので、私から島田理事長のお話や、先輩方のお話を嬉しく伝えていたところでした。

そのような状況の中、ちょうど島田さんがご逝去された11月終わり頃だったかもしれません。2023(令和5)年1月の実習巡回担当案が発表され、ついに私が「子持山学園」の担当者となりました。「やっとうかがえる!島田さんにもお会いできる!」と嬉しく、1月28日土曜日に職員の方にアポイントをとらせていただきお伺いしたところ、島田理事長ご逝去を知り、呆然とした次第です。

島田さんとの出会いは、私がドイツから帰国してすぐの2001年のことだったと思います。ぐんま日独協会に入会させていただき、高崎で始めたコンサートシリーズのご後援をぐんま日独協会にいただいたりしたご縁もあり、副会長を務められていた島田さんが昌子夫人とよくコンサートにも出かけてくださいました。そして演奏会後は、遠くからお出かけくださっているにもかかわらず、優しい笑みを浮かべながら少し高めのお声で、必ず一言ご感想 やねぎらいのお言葉をかけてくださいました。そして私はお礼状を書くたびに、島田卓爾さんの「爾」は、世界的指揮者、小澤征爾の「爾」だなどと思っておりました。

そんなかわりを持たせていただいていたからか、私の携帯電話にはもう10年以上は少なくとも連絡していなかった島田さんのご自宅の番号がしっかり登録されていました。ご逝去を「子持山学園」で知ったその日、高崎へ戻る前に渋川市内にてお電話試みましたが残念ながらタイミング合わず、帰途につきました。その後、鈴木会長や平方事務局長のお力添えもあり、昌子夫人とお話することができました。後日、昌子夫人より島田さんが『「感謝」の心』と題してかかれた文章が掲載された、子持山学園「シオンの子」の会報第48号(2022年12月1日発行)と、とても明るく可愛らしい心が安らぐようなハンカチと昌子夫人の絵によるポストカードを送ってくださいました。

「子持山学園」では今、この2023(令和5)年3月に卒業した卒業生が元気に働かせていただいております。島田さんの「子持山学園」への想いや理念を少しでも受け継いでいけるよう、私にできることを精一杯させていただきたいと思います。

島田卓爾様、本当にありがとうございました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。



在りし日の島田様
2020年12月ぐんま日独協会クリスマス会

2005年から2022年11月まで
理事長をなさった子持山学園



村長時代に埋められたタイムカプセル
2040年9月開披

事務局より

Ⅰ. 今年の活動計画

9月からの活動予定表

9月2日(土) オンライン ドイツサロン(14:00~16:00)

9月9日(土) オンライン執行理事会・フェスティバル実行委員会同時開催(19:30~21:00)

9月10日(日) オンライン ドイツ語講座高崎会場(14:00~15:30)

9月24日(日) オンライン ドイツ語講座高崎会場(14:00~15:30)

9月28日(木) クマさんづくり Mサポ会議室(13:30~16:00)

10月7日(土) ドイツサロンは休会とし、その代替としてドイツフェスティバルの中でドイツ人ゲストのプレゼンを映像により行います。

10月14日(土) オンライン執行理事会・フェスティバル実行委員会同時開催(19:30~21:00)

10月15日(日) オンラインドイツ語講座高崎会場(14:00~15:30)

10月20日(金) ドイツフェスティバル前日準備作業(9:00~17:00)

10月21日(土) ドイツフェスティバル第1日(10:00~16:00)

10月22日(日) ドイツフェスティバル第2日(10:00~16:00) 後片付け(16:00~17:00)

10月26日(木) クマさんづくり 休会

10月29日(日) オンラインドイツ語講座高崎会場(14:00~15:30)

11月4日(土) ドイツサロン 休会

11月11日(土) オンライン執行理事会・フェスティバル実行委員会同時開催(19:30~21:00)

11月12日(日) オンライン ドイツ語講座高崎会場(14:00~15:30)

11月19日(日) ドイツ映画を観る会(14:00~於 前橋市中央公民館4階視聴覚スタジオ)

11月26日(日) オンライン ドイツ語講座高崎会場(14:00~15:30)

11月30日(木) クマさんづくり Mサポ会議室(13:30~16:00)

12月2日(土) ドイツサロン(14:00~16:00)

12月9日(土) オンライン 執行理事会(19:30~21:00)

12月10日(日) オンライン ドイツ語講座高崎会場(14:00~15:30)

12月16日(土) クリスマス懇親会(14:00~16:00 於 オリーブ)

12月24日(日) オンライン ドイツ語講座高崎会場(14:00~15:30)

12月28日(木) クマさんづくり 休会

2. 「第9回ドイツフェスティバル in ぐんま」

< 「第9回ドイツフェスティバル in ぐんま」の実施にあたって >

I. 目的：コロナ禍が漸く下火になり、ぐんま日独協会では延期してきたドイツフェスティバルを開催し、ドイツとの国際交流を活発化すると共に 一般の県民の方々にも国際交流に関心を持っていただくことを目的とする。

同時に会員相互の理解と親睦を密にすることで、今後の当協会の活動の活発化を図る。

II. 日時：2023 年 10 月 21 日(土)・22 日(日)の二日間

10:00～16:00(両日とも)

III. 場所：群馬県庁 1 階県民ホール(北側)と屋外

IV. 入場：無料

V. テーマ：『ひとあし早い あなたとドイツのクリスマス』

VI. 内容：

1. パネルや映像で紹介「ドイツのクリスマス」

ドイツではクリスマス商戦は 9 月から始まるとされており、アドベント(1 カ月前)からクリスマスまでのドイツでの生活とドイツ各地のクリスマスマーケットなどについて紹介。

2. 実演

(1) 音楽イベント (フォークダンス、コーラス、吹奏楽、弦楽二重奏、トロンボーントリオ、アコーディオンサークル、メサイア研究会 OB、等)

(2) ドイツ紅茶の淹れ方(陶豆屋)

3. 展示

(1) 絵画展(ドイツ大使館主催絵画コンクール「わたしのドイツ」出品作品)

(2) テディベア等作品展示(クマさん作りの会)

(3) メルクリン鉄道模型

(4) ドイツ車展示(屋外)

(5) その他

4. 商品紹介と販売

(1) ドイツパン

(2) シュトレン

(3) ビール・ワイン・グリュウワイン(試飲可)

(4) ドイツ紅茶

(5) ドイツのアクセサリー

(6) ドイツ時計

(7) ドイツの玩具

(8) その他

5. 出店(9店舗)

- (1)陶豆屋(ロンネフェルト紅茶、グリュウワイン等)
- (2)ミルハウス(アクセサリ、ドイツ小物等)
- (3)南雲時計店(ドイツ時計)
- (4)黒田人形店(ドイツの玩具、クリスマス商品等)
- (5)仲澤酒店(ドイツワイン、ドイツビール、グリュウワイン、等)
- (6)林牧場・トントン広場(ソーセージ、ハム)
- (7)ベッカライウラノ(ドイツパン)(21日)
- (8)シュヴァイン(ドイツパン・シュトレン)(22日)
- (9)ドイツパン・菓子勉強会(シュトレン・菓子等)

VII. 主催: ぐんま日独協会

後援: ドイツ連邦共和国大使館 ゲーティンストリートウート東京 ドイツ観光局 (公財)日独協会
 全国日独協会連合会 群馬県 前橋市 群馬県観光物産国際協会
 前橋市国際交流協会 上毛新聞社 朝日新聞社前橋総局 読売新聞前橋支局
 毎日新聞前橋支局 産経新聞社前橋支局 東京新聞社前橋支局 群馬テレビ
 FM GUNMA まえばし CITY エフエム

協力: 沼田市 草津町 嬬恋村 少林山達磨寺 ベルツ記念館
 (一般社団法人)日本自動車販売協会連合会 群馬支部

第9回 ドイツフェスティバル in ぐんま
 ひとあし早い あなたとドイツのクリスマス
 2023 10/21(土)~22(日) 群馬県庁1階
 県民ホール北側・県民広場 10:00~16:00

**パネル・映像コーナー
ドイツのクリスマス紹介**
 クリスマスの準備と過ごし方
 各地のクリスマスマーケット
 クリスマスの料理
 クリスマス飾り 等

**ドイツ製品紹介・販売コーナー
ドイツ輸入品の紹介・販売**

ドイツ食品
 ワイン、ビール各種
 ロンネフェルト紅茶

ドイツ製品
 ドイツ製玩具
 ドイツ製アクセサリ
 ドイツ時計

ドイツ車フェア(県民広場)

**展示コーナー
鉄道模型・ティペア・絵画**

メルクリン鉄道模型の実演
 ●会員による手作りティペア
 ●ドイツ大使館「わたしのドイツ」
 絵画展応募作品

出演
 ●10/21(土)
 前橋市フォークダンス協会
 ●10/22(日)
 前橋市フォークダンス協会
 音楽・舞踊・合唱・演奏(指揮:星野英亮)
 コーラス・舞踊(指揮:原典)
 コーラス・ブルース(指揮:原典)
 ●10/23(月)
 演劇・ダンス・音楽
 群馬大学音楽部(指揮:吉田秀文)
 ドイツ・ダンス・音楽(指揮:吉田秀文)
 音楽・舞踊(指揮:原典)
 ●10/24(火)
 ドイツ・ダンス・音楽(指揮:吉田秀文)
 ドイツ・ダンス・音楽(指揮:吉田秀文)
 音楽・舞踊(指揮:原典)

ドイツサロン オンデマンド
 ドイツのクリスマス紹介/Ther Roth
 クリスマス料理紹介/Heinrich Sudendorf

スチーヴのプログラムは
 こらにアクセサリして
 ご覧ください

GOETHE INSTITUT

ドイツと日本
 Zukunft gestalten
 ともに未来へ

主催 ぐんま日独協会

第9回 ドイツフェスティバル in ぐんま
 ひとあし早い あなたとドイツのクリスマス

本場のドイツの味をどうぞ!

●ドイツ製法のハム・ソーセージ
 HUTTE HAYASHI

●ドイツパンとクリスマスの焼き菓子
 ベッカライウラノ(21日)
 シュヴァイン(22日)
 ドイツパン・菓子勉強会(21日、22日)

ドイツ製品をお楽しみください!

●ドイツワイン・ドイツビール
 ・ジュース・お菓子
 (有)仲沢酒店/グランヴァン前橋

●ドイツ ロンネフェルト
 紅茶 各種
 成崎 陶豆屋(TOUTOUYA)

●ドイツ車フェア
 展示 ドイツ車一覧

●ドイツ時計
 ドイツ時計 南雲時計店

●ドイツマスター製
 アクセサリー ミルハウス

ぐんま日独協会のご案内
 ●ドイツサロン(ぐんま日独協会主催)
 毎月第1土曜日 14~16時オンラインで開催。ドイツ人(通訳
 付)と会員のプレゼンテーションで楽しく意見交換や相互交流
 します。どなたも参加自由。メールアドレスを事務局にお知らせ
 ください。

●入会のすすめ(会費の情報は心配不要です)
 ドイツ好き集まれ!の会です。
 興味をお持ちの方は、事務局へご連絡ください!

ぐんま日独協会事務局
 〒371-0100
 群馬県前橋市上野町石井 2445-219
 (群馬県)
 Tel・Fax 027-238-4297
 e-mail info@jdg-gunma.jp
 ホームページ https://www.jdg-gunma.jp/

5. フュッセン市との「オンライン姉妹都市交流会」

五十嵐真理（沼田市役所企画政策課）

これまでも、沼田市とドイツ連邦共和国フュッセン市との姉妹都市交流についてご紹介させていただきました。今回は交流の取り組みの一例として、沼田市国際交流協会が主催した「オンライン姉妹都市交流会」について書かせていただきたいと思います。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、姉妹都市交流がなかなか実施できない状況が続いていたことから、オンライン上で交流を深める「オンライン姉妹都市交流会」を2022年8月26日に開催しました。2020年にフュッセン市長に就任された Maximilian Eichstetter（マクシミリアン・アイヒシュテッター）市長と、2022年5月に就任された星野稔市長との初めての対談となり、自己紹介や観光スポットを含む両市の魅力について互いに紹介しました。

フュッセン市側の壁には、沼田市内の小・中学生が作成した絵画（絵画交流で毎年送付している）が飾られており、中心市街地にある大正ロマンエリアの旧沼田貯蓄銀行や大天狗面、だるま、玉原湿原のミズバショウ、沼田の礎を築いた真田氏の「六文銭」などを画面上で見ることができ、沼田市の雰囲気をフュッセン市から感じられるという嬉しい体験でした。また、これらの絵画を通してフュッセン市の人たちが本市に興味を持って親しんでもらえるきっかけの一つになっていることも、嬉しい発見でした。



フュッセン市役所



展示されていた絵画



沼田市役所

これまで両市を行き来し、実際に会って親交を深めてこられた Wilhelm Schwecke (ヴィルヘルム・シュベッケ) 氏、Stefan Fredlmeier (シュテファン・フレッドルマイヤー) 観光局長、そして特別ゲストとして日独親善活動に力を入れられている Daniel Föst (ダニエル・フェスト) ドイツ連邦議会議員もベルリンからご参加くださいました。

1995年9月29日の国際姉妹都市提携から続く数々の交流の思い出について語り合い、両市の友好関係を熱心に繋げてくださった歴代の両市長や市民の皆さんへ想いを馳せました。この素晴らしい姉妹都市関係には、熱い想いを持った両市民の支えや貢献があり、現在もなお交流の輪が続いているということを改めて実感しました。遠く離れた場所にあっても、心と心の距離は近くにあり、温かい気持ちを通じ合っていることは何ものにも代えがたいことだと思います。両市の参加者の気持ちが同じ方向を向いて繋がっていることを共有することができました。

アイヒシュテッター市長から、「今後も交流を続けていくことは私自身の切なる願いでもあります。このような時代だからこそ、国と国との友好関係がいかに重要であるかを実感しています。」とのお話がありました。お互いの友情を再確認するとともに、今後も発展していく友好関係が楽しみとなる「オンライン姉妹都市交流会」となりました。

今年の9月29日に第2回「オンライン姉妹都市交流会」を開催することとなり、ただいま準備を進めているところです。この日は、国際姉妹都市提携28周年記念日です。28周年になる両市の友情をお祝いし、市民吹奏楽団の演奏や両市の高校生の意見交換を行います。次の節目の年である30周年に向けて、友情が更に深まる交流会となることを期待します。

そして昨年度、ドイツ大使 Dr.クレームンス・フォン・ゲッツェ閣下が本市を来訪し交流を深める機会をいただいた際に、同行されていた鈴木会長様から大使館職員による講演会の開催についてお話を頂戴しました。ドイツと本市の関わり、ドイツ文化、大使館業務等をテーマに講演していただき、外国語・多文化共生・大使館業務等に興味のある中学生・高校生の未来へのヒントとなるような、また、本市とドイツの関係を市民に周知できるようなイベントとして10月29日に開催する予定です。フュッセン市との交流を中心にドイツとの関わりをますます深めていき、市民に向けてその関係を周知するなど、意識の啓発・中高生の学習の機会としたいと考えています。

フュッセン市の様子



草津町とビーティヒハイム・ビッシンゲン市の姉妹都市交流について

草津町観光課 唐澤広子

○ビッシンゲン市とは

ドイツ連邦共和国バーデン・ヴュルテンベルグ州にある、故エルウィン・フォン・ベルツ博士の生誕地であり、ワインや木製家具、建築床材(リノリウム)の生産が有名で、人口43,137人(2021.12.31 現在)とルートヴィヒスブルグについて郡内2番目に大きな町です。

草津町の温泉の効果と高原気候のすばらしさを世界に紹介した博士の功績と遺徳を偲び、草津町の姉妹都市提携第1号として交流が始まりました。

○エルウィン・フォン・ベルツ博士とは

今から、約170年前にビーティヒハイムと呼ばれた町で誕生しました。ベルツ先生は、明治政府の招聘をうけて、東京医学校(現在の東京大学医学部)で勉強を教えとともに、医師として外来の診察を行いました。そして、明治天皇のお子様である嘉仁親王(後の大正天皇)の宮中医師としても活躍されました。また、温泉治療の近代医学の立場で眺め、積極的に温泉の研究を行い、草津温泉の医学的に優れていることをヨーロッパの医学会に発表しました。ベルツ博士



【エルウィン・フォン・ベルツ博士の墓】

士の日記には、「草津には、無比の温泉以外に日本で最上の山の空気と、全く理想的な飲料水がある。もしもこんな土地が、ヨーロッパにあったとしたら、カルルスバードより賑わうだろう」と記して大いに優秀な保養地と褒めています。このように、教育者として素晴らしい研究者でもあり、単に医学だけでなく、文化に対する態度、発展とは何か、伝統とは何か、自然を愛し生きて行くことはどういうことであるのかを教えてくださいました。昭和10年8月4日には、西の河原公園にベルツ先生の記念碑の除幕式が行われており、碑の隣にはベルツ先生らの胸像も建立され、今も訪れる多くのお客様と草津町民を見守ってくれています。

○姉妹都市の歩み

1935(昭和10)年 ベルツ博士の顕彰碑建立(西の河原公園)

1962(昭和37)年 草津町とビーティヒハイム市と姉妹都市締結

1974(昭和49)年 隣接都市ビッシンゲン市 合併

ビーティヒハイム・ビッシンゲン市 発足

1998(平成10)年 この年より、中学生の高官交流事業が始まりました。

現在まで、草津町からは168名をドイツへ派遣しており、ドイツからは、179名草津町に派遣されてます。

20238(令和5)年 7月、草津町よりビーティハイム・ビッシンゲン市 訪問

9月、ビーティハイム・ビッシンゲン市より草津へ訪問予定

5年ごと、互いにそれぞれの町へ訪問し交流を深めています。

○他国の文化を知る

ベルツ先生が縁で姉妹都市交流が始まり、都市連携の一環として、1997年以来、草津中学校の生徒とビッシンゲン実科学校との間で定期的な学校交流が行われています。(ホームステイプログラム)

令和5年7月に訪独し、ビーティハイム・ビッシンゲン市庁舎へ招待された草津中学校の12名の生徒に対して、ユルゲン・ケッシング市長は、「目的は、交流中にこの文化を知る事、そしてその逆も然りです」とスピーチで述べ、ビーティハイム・ビッシンゲン市の子どもの訪日について言及されています。遠く離れた日本とドイツの人々との触れ合いは、新しい友達を作る事だけでなく、形勢的な経験も積むことで、お互いの文化を知ることが出来る一つのきっかけになると思います。



令和5年7月22日姉妹都市友好60周年記念式典
会場 クローネンセンター



【友情の証書】

黒岩 信忠 町長

ユルゲン・ケッシング市長

〇結びに

令和5年7月22日 姉妹都市締結60周年記念式典が開催され、その友情を再確認することが出来ました。

また、今回滞在期間中に、エルウィン・フォン・ベルツ博士のお墓参りを行い、日本から持参した「草津町の水」と「線香」を手向け、交流のきっかけとなったエルウィン・フォン・ベルツ博士の墓石を目の前に、身の引き締まる思いがいたしました。

この60年間、新型コロナウイルス感染症の影響による延期以外には、その歩みを止めることなく幾度も交流が続いていますが、これも先人たちが交流を積み重ねた結果、築き上げてきた賜物であると考えております。

この先も末永い交流が続くよう努力して行くことを誓うと共に、今年の9月にはビーティヒハイム・ビッシンゲン市の訪問団が来日しますので、心を込めておもてなしをします。



昭和36年6月、日独修好百年を記念してエルウィン・フォン・ベルツ博士の生家近くに有るメッター公園に建立された石碑

草津町 西の河原公園に建立されている記念碑を少し小型にした物を贈呈しました。

草津町にある顕彰碑は、昭和11年4月建立されました。

西ドイツ・Hamburg 駐在体験記(その1)

杉本隆雄 会員

1968 年9月、東西分裂時代の西ドイツ・Hamburg で商社現地法人に勤務を始めました。その体験につき纏めてみたらとのお誘いを受けたので思いつくままに細かいことまで順不同で書いてみました。

1968 年時代背景

日本の首相佐藤栄作、ドイツの首相キージンガー、東大紛争安田講堂事件、川端康成ノーベル賞受賞、プラハの春、パリ5月革命、三億円事件

Hamburg はどんなところ

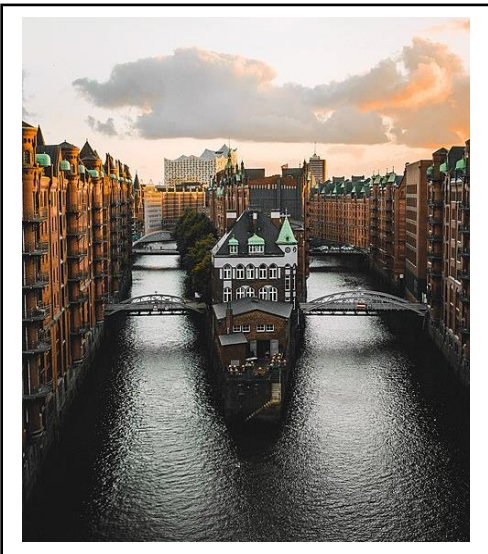
ドイツ最北の州 Schleswig-Holstein 州の中にある州都。ドイツ連邦共和国 16 州の内、Berlin、Hamburg、Bremen は都市でありながら州として扱われています。

Hamburg 港は Amsterdam に次ぐヨーロッパ第2の港。チェコ・ポーランド国境地帯のズデーデン山塊に源を持ち北海に注ぐエルベ川全長 1,091km、河口から約 120km の所にある港町。人口 185 万人。

真ん中に見える教会が St. Michaelis 聖ミハエリス教会で、エルベ川を遡上してきた船から最初に見えるのがこの教会。船員たちはこの教会を見て「Hamburgに着いた」と思うのだそうです。

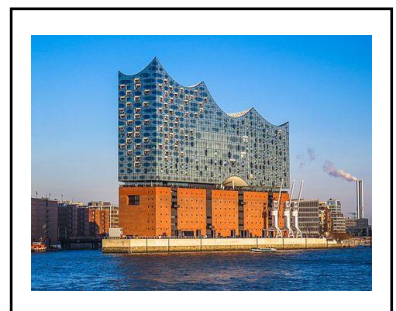


港に連なる赤レンガ倉庫群。倉庫であると知らない旅人は思わずお城と勘違いしてカメラを向けるそうです。この近くのオフィスビル群と共に Speicherstadt と呼ばれている地域です。2015年に世界遺産に登録されました。「ここが港ですか、ウーン、潮の香りがしますね」などと言った人もいました。東京港から前橋までの距離ですから潮の香りはしませんが、心理学でいう観念連合という事なのだと思います。



ドイツ外務省による紹介文：

Hamburg は、ドイツの世界に向けた扉であり、ドイツ最大の港を持つ貿易の最重要拠点です。この都市州は同時に、ヨーロッパ各市場間の関係において、工業とサービス業の重要な中心地です。自由ハンザ都市 Hamburg は、ドイツのメディアの中心地でもあり、ドイツ通信社 (DPA)、北ドイツ放送 (NDR) をはじめ、多くの



民放や、ドイツで最大規模の新聞社、雑誌社が拠点を置いています。このほかにも Hamburg は、国際会議や見本市の開催地としても国際的に高く評価されています。また 92 カ国が領事館を置く、世界一多くの領事館を擁する都市でもあります。港に連なる赤レンガ倉庫の一棟の上に Elbphilharmonie なるコンサートホールが建設されました。建築はスイスの会社、音響設計は日本の永田音響設計が担当。こけら落としは 2017 年 11 月、最上階は Westin ホテルです。

転勤 VISA

長期滞在し会社を運営する私達の転勤に際しては長期滞在 VISA を取得します。指紋をとって無犯罪証明書も付けましたし、健康診断も厳格でした。

Aufenthaltserlaubnis=滞在許可書は毎年更新、日本商社の現地法人はドイツ人を雇用する Arbeitsgeber の立場であったので VISA は取りやすいという事になっていました。更新日は外人警察によって決められていて、Japan は Jugoslavia (当時) と同日で、いわゆる出稼ぎ労働者の皆さんと同室に入れられるのは辛かった。日本に來ているドイツ人はどういう扱いを受けているのかと想像していました。

住居の事



着任してから 2~3 か月 Pension Hotel という、朝飯だけ付の簡易ホテルに住み、その後しばらくはアパートメントの間借り生活でした。そのアパートメントは市の中心部の高級住宅街、1910 年頃建築され、戦火から免れた快適なアパートメント。2 階の大家さんは自分たちの部屋の他に 4 室もあり、それぞれ独身の店子を入れていました。通勤には U-Bahn の地下鉄利用、都心の目抜き通り Mönckebergstrasse の会社まで 20 分程度です。

Hamburg では最高の目抜き通りに事務所があり、東京で言えば日本橋通り、三越近辺といえる通りだと思います。あとで書きますが、ドイツを代表するデパートである Karstadt が私の 4 階の事務室の真ん前でしたから、まさに日本橋通りという感じてした。

右の写真は間借りしていた Hochallee の Wohnung (マンション) です。朝食はすぐ前のパン屋さんで Brötchen や菓子パンを購入、当時日本にはなかった Chivers のマーマレードには病みつきになり毎日おいしくいただきました。家主の Küche 台所で調理するのは神経を使いました。ドイツ人の Küche は使う時間より掃除している時間の方が長いと言われるくらい台所をきれいにします。手術室のような清潔さと冷ややかさが感じられました。床に水一滴放置がもとで口論し、退去することになった間借り人もいと聞いたことがありました。あとは、風呂の水、ドイツ人は水にとってもケチ。水道料大家負担で借家契約をすると間々





起きるのが水道料金問題。日本人の水の使い方はとても理解されないです。

そうこうするうちに適当な家が見つかりました。ドイツによくある Reihenhaus いわば棟割長屋です（左の写真）。通常2階建て4軒並び、裏庭付き、両端の2軒は袖の部分で庭が広い。家族も合流。一棟4軒で、10棟で団地を形成していた。ここに住むに当たって借家契約と共に大家さんから

住民としての規律書を読まされました。

曰く：

- ① 駐車場、22時以降の駐車ではドアはパターンと閉めるな。車体の手前でカチッと閉める事
- ② 土曜の午後から日曜日にかけて子供は外で遊ばせない。
- ③ 同じく洗濯ものは外で干さない。（ドイツには物干し竿は無く、洗濯物ロープ）
- ④ 同じく芝刈りはしない。芝刈り機はうるさいから。
- ⑤ 駐車場には絨毯の掃除場があり、パタパタ掃除するのは火曜日の午前中のみ
- ⑥ 雪の日は自宅前の雪かきを行う、歩行者が転んで怪我した場合、医療費はその家が負担する等々

家には地下室がある。ドイツ語の Das Haus は地下室が伴う家の事だそうです。

（der Bungalow は通常地下室の無い家のこととされていましたか？）

地下には石油タンクと暖房機があり、北緯53度の Hamburg は夏でも寒い日があり自動的に暖房機の運転が始まる。日本近辺で言えばカムチャッカ半島の緯度。庭には生垣がありました。垣根の樹木が伸びてきたので大家さんに庭師を手配してくれと頼んだところ、ドイツには庭師は居ない、自分で作業するのだとのこと、デパートで樹木ばさみを買ってきておっかなびっくり刈込をした。しだいに慣れてきて

て上手になった。

ドイツ人は美観にうるさい。芝が伸びたり樹木が生い茂ると「ちょっとお宅は・・・。」などと率直に注意してきます。言われるのは嫌だから時間をみて常に綺麗にしておきます。

この家は Hamburg の北部で Fuhlsbüttel Hamburg 空港に近い所。何故空港に近いかと、我々商社マンというのは殆ど連日の如く日本の取引先のお客さんの出迎えが仕事の一部なのです。当時、JAL は出来たばかり



りのジャンボジェット機 BOEING747を就航し始め、羽田—アンカレッジ—Hamburg—Frankfurt で飛来しました。到着時刻は午前6時半、気象条件等により狂うことがありますので、JAL 空港事務所と電話確認しながら出迎えです。複数人で荷物など多い時は他の日独スタッフも動員します。早朝の到着客は先ずホテルまで案内し、一休みしてもらうことになります。外国で心細い思いだと訴える人もいます。自宅に連れて行って朝食を共にしてホットしていただくこともありました。

東西ドイツ分裂時代

1945年5月ドイツ敗戦以来1990年3月までドイツは英、仏、米、ソの4か国に分裂支配されました。

Germany 1945-90



西ベルリンは正に東ドイツの中での孤島でした。西側のドイツ人は東に分かれてしまっているドイツ人にとっても愛着をもって過ごしていました。西ベルリンに行く飛行機代はとても安かったし、郵便切手代なども他地域よりも安かったです。西側ドイツ人の東に対する愛情だと思いました。会社の中でもドイツ人社員とは、その関連の話が多かったです。国連加盟の事も話題になっていました。西は入るけれど東は入れなんじゃないかと心配している人もいました。

1973年、前年に相互承認を行った東西ドイツが同時に国連に加盟しました。当時のブラント首相の東方外交の成果で、一民族二国家が国際的に承認されたことになったといわれました。

週末にも来客が Hamburg に滞在することがありました。どこかに御案内するのが任務です。車でアチコチご案内しました。Autobahn は

速度無制限ですが、お話ししながら運転できるのは最高時速 150 km 位だと思います。それでもチョット気持ちが悪い、遅く走ってという人もいました。120 km 程度だと、VW カブトムシ程度で、高速車にはピカピカとやられて追い越し車線を譲ることになります。屢々案内したところは Hamburg から北方約 30 km の所にある Ratzeburg という

景勝地です。風光明媚なところで、ドイツの小スイスなどと呼ばれています。ここが東西ドイツの分岐点でした。国境がありました。東側から湖の中心まで秘密のトンネルを作って要人が脱走してくると言う小説まで書いた人がいました。東西ドイツの国境。向こうに見えるのはロシアの監視台。国境の何メートルかは土が軟らかくなっていて走って脱走するのに不便になっている、またあの監視台の上から脱走者が射殺されるとも言われていました。ドイツ側

には「向こう側だってドイツだ」という意味の看板もありました。(続く)



8. 日本百名山 独訳 - 連載 11

深田勝弥 会員

48 剣岳 (3003 米) 48 *Tsurugi-dake* (3003 Meter)

48-01

北アルプスの南の重鎮を穂高とすれば、北の俊英は剣岳であろう。層々たる岩に鎧われて、その豪宕、峻烈、高邁の風格は、この両巨峰に相通じるものがある。大学山岳部が有能な後継者を育てるための夏季合宿、精鋭を誇るクライマーのクラブが困難なルート求めて氷雪に挑む道場を、大抵はこの穂高か剣に選ぶのも故あるかなである。



Wenn der Berg *Hotaka* (55) in Süden der nördlichen Alpen ein Wichtiges ist, mag der Berg *Tsurugi-dake* im Norden ein Starkes sein. Den Panzer von Felsen tragend, haben beide Gemeinsamkeit mit großem, strengem und hochgesinntem Charakter. Es ist natürlich, dass der Alpenverein in den Universitäten den *Hotaka* oder *Tsurugi* auswählen, um fähige Nachfolger großzuziehen oder um die harte Route herauszufordern.

48-02

『万葉集』に載っている大伴家持の「立山の賦並びに短歌」讃えられている立山は、今の立山ではなく、剣岳であろうという見解を私は持っている。太刀（剣）立ちつらねたようなさまであるから「たちやま」と名づけられた。家持の歌に出てくる「可多加比河（片貝川）の清き瀬に・・・」（4002）とか、その歌に和して大伴池主の作った歌の中の「厳しかも岩の神さび・・・」（4003）とかいう描写は、剣岳以外には考えられない。

Der Berg *Tachiyama*, der Name von *Ohtomo Yakamochi* im „*Manyohshuh*“ gezeigt ist, ist wohl kein heutiger *Tateyama*, sondern ist der *Tsurugi*, so meine ich. Weil der Berg, wie gereiht stehende Schwert ist, war *Tachiyama* genannt. Aus den Beschreibungen sowohl „auf der reinen Untiefe des Flusses *Katagai*“ von *Ohtomo Yakamochi* als auch „so streng wie der Gott“ von *Ohtomo Ikenushi*, kann ich nichts außer dem *Tsurugi* finden.

48-03

まことに剣岳は、そんな昔から、それを仰ぐ人々の心を高揚する山である。何よりその風采の豪毅にし

て颯爽たる点である。日本アルプスの高峰にはそれぞれの風格があるけれど、一つの突端を頂点として胸の透くようなスッパリした金字塔を作っているのは、この剣岳と甲斐駒ヶ岳ぐらいであろう。

Es ist richtig, dass der *Tsurugi* schon lange die ihn aufgesehenen Personen aufregte. Vor allem hat er das starke und schneidige Format. Obwohl jeder hohe Berg in japanischen Alpen das eigene Format hat, sind die pyramideförmige Berge wohl nur der *Tsurugi* und der *Kaikomaga-dake* (77).

48-04

全く剣岳は太刀の鋭さたちと靱さつよさを持っている。その鋼鉄のような岩ぶすまは、激しい、峻しいけわいせり上がりをもって、雪をよせつけない。四方の山々が白く装われても、剣だけは黒々した骨稜を現わしている。その鉄くろがねの砦と急峻な雪谷に守られて、長らく登頂不可能の峰とされていた。弘法大師が草鞋千足を費やしても登り得なかったという伝説はさておき、日本アルプスの山々が登り尽くされる最後までこの峰は残った。

Tatsächlich hat der *Tsurugi* die scharfe und biegsame Stärke. Die Felsenburg wie Stahl lässt mit seiner Steilwand an sich keinen Schnee heran. Der *Tsurugi* bleibt allein mit dem tiefschwarzen Bergrücken, wenn auch die Berge um ihn herum von Schnee weiß bedeckt werden. Man hatte lange ihn für Unmöglichkeit zu steigen gehalten. Diese Sage beiseite, dass der Mönch *Koboh*, trotz der Abnutzung eines Tausend Strohsandalen, auf dem Gipfel nicht steigen konnte, blieb er als Gipfel der Berg Jungfrau, bis alle andere in japanischen Alpen bezwungen wurden.

48-05

その剣岳の神秘が開かれる日がきた。明治40年(1907年)7月13日、陸地測量部の一行によって、ついにその頂点が踏まれた。ところが、人跡未踏と思われていたその絶頂に初めて立ったのは彼等ではなかった。彼らより以前にすでに登ったものがあつた。測量部一行は頂上で槍の穂と錫杖しゃくじょうの頭を発見したのである。

Es ist endlich der Tag gekommen, wo die Antwort im Rätsel gefunden wurde. Am 13. Juli 1907 hatte die Gruppe von Vermessungsingenieur sich endlich auf den Gipfel aufgestellt. Aber sie war kein erster Steiger, weil jemand zuvor schon aufgestiegen hatte. Noch dazu hat die Gruppe hier eine Lanzenspitze und ein Schmuckstück von Stock gefunden.

48-06

槍の穂の長さ約1尺、修行者が頂上で修法する時に用いた宗教用の剣であつた。シナの竜門洞窟仏像の錫杖と同じものと思われ、唐時代の作であろうと学者によって鑑定された。槍の穂も錫杖の頭も

多年の風雪に曝されて、少し間隔をおいて残されていた。前者はさほど深錆とも見えないが、後者は非常に綺麗な緑青色を呈していた。

Die Spitze ist eins Fuß lang, und diese diente der Mönch zum Ritus. Und der Stock ist wohl gleich mit dem Stock der Buddha-statue in der Grotte *Longmen* in Tang Zeit (618-907) in China geschätzt. Diese Spitze und der Schmuck blieben lange unter dem Schneesturm Abstand von etwas haltend übrig. Aber jener scheint nicht so rostig aus, und dieser war sogar sehr schön grünblau.

48-07

古来登山者絶無とみなされていたこの峻険な山に、誰か勇猛果敢な坊さんが登っていたのである。それはいつの頃で、どのコースを取ったのであろうか。分らない。槍の穂と錫杖の頭は、同一人の持物であったのだろうか、別々の人の物であったのだろうか。分らない。そしてまたこれらの品は、記念のため頂上に遺されて行ったのか、或は登攀者が天候の異変にあつて倒れ、所持品だけが残ったのか。分らない。とにかく不退転の勇氣と鉄の意志を持った修行僧が、激しい信仰の念にかられて、この頂上に達したことだけは歴然とした事実である。

Es ist das Faktum, dass irgendeiner von mutigen Mönchen den schroffen Berg bestiegen hatten, den niemand davor erfüllen konnte. Es ist nicht bekannt, wann es getan war, wesen Speer und Stock ist, und ob eines oder anderes ein. Es ist nicht auch bekannt, ob welche Route ausgewählte und wer diesen Artikel als Andenken hinterließ, oder wegen des Unglücks oder stürmischen Wetters übriggeblieben war. Jedenfalls ist es deutlich die Tatsache, dass ein Mönch, von der Macht von Glauben angetrieben, mit dem todesmutigen Entschluss und der Wille wie Eisen, an dem Gipfel angekommen war.

48-08

この発見から2年後に、純粋な登山を目的とする四人のパーティによって登頂されたが、それを案内したのは、前の測量隊に同伴した宇治長次郎であった。そしてこの時一行の登り路に採った雪溪に長次郎という名が与えられた。

Nach zwei Jahren dieser Entdeckung war eine Gruppe von vier Personen hinaufgestiegen. Dabei hatte *Uji Chohjiroh*, der Begleiter des Verm-Ings. vorhin gesagt war, die Gruppe geführt. Und das Schneetal, das sie da ausgewählt hatten, wurde nach seinem Namen *Chohjiroh* genannt ist.

48-10

宇治長次郎と並んで、我が国近代登山黎明期の越中の名ガイドと呼ばれた佐伯平蔵は、やはり剣

岳東面の雪溪に平蔵谷の名を遺した。そして長次郎谷と平蔵谷とを分つ岩稜は、やはり名ガイドの一人の名を採って、源治郎尾根と呼ばれている。

Saeki Heizoh auch wie Chojiroh, der ausgezeichnete Führer im Land *Etschuh* in der Frühzeit des japanischen modernen Bergsteigens war, hat den Namen *Heizo-dani* an dem Schneetal in der östlichen Seite von *Tsurugi* hinterlassen. Und eine Felsenkante zwischen zwei Täler *Choujiro-dani* und *Heizo-dani* ist auch nach anderem guten Fühler *Genjiro-one* genannt.

48-10

どこから見ても断崖と岸壁に鎧われていて、どこから登り得るか見当のつけようさえなかった剣岳も、現在ではあらゆるコースが採られ、若い勇敢なクライマーたちは困難な岩壁ルートを求めている。そして、大窓、小窓、三の窓、ヤッ峰等の古風な名前と共に、ニードル、チンネなどという西洋風な名も混じって、万葉集の太刀山は、中世修験者の剣岳は、近代的なクライミングの試練場となっている。

Obwohl der *Tsurugi*, von überallher geblickt, mit den Abgründen und Felsenwände umgeben und sogar mit dem nicht mutmaßlichen Eingang, ist heute die Routen all entdeckt. Die jungen und mutigen Steiger suchen die noch schwierigen Felsenrouten. Daraufhin sind sein Name mit dem alten Namen wie *Ohmado*, *Komado*, *San-nomado*, *Yatzmine* usw. auch westliche Namen wie *needle* (*Nagel*), Zinne gemischt ist, der *Tachiyama* in der *Manyousuh*-zeit und der *Tsurugi-dake* in der Mittelalter von Mönchen in den modernen Trainingsort verwandelt.

48-11

おそらく剣岳の一番みごとな景観は、仙人池あたりから望んだものであろう。眼前に、岩と雪の交錯したダイナミックな光景が迫ってくる。雄々しい岩峰と、その間隅に光る純白の雪。これほどアルプス的な力強い構図は他に類がない。その男性的な眺めに緊張した眼を下へ移すと、そこにはメルヘン的な原がやわらかに拡がって、底の池沼に岩と雪の剣岳が逆さに映っている。

Wahrscheinlich bekommen wir, von der Gegend des Teiches *Sen-nin* geblickt, die schönste Landschaft. Der Felsen und Schnee miteinander gemischt dynamische Anblick kommt vorn Augen nahe. Die mannhafte Felsenspitze und der dazwischen scheinend blütenweiße Schnee. Es ist keine so alpinere Komposition als hier. Zum männlichen Anblick unten gesehen, ist das märchenhaft weich sich erweiternden Feld und spiegelt der umgekehrte *Tsurugi* in dem Teich.

12. Sep. 2017

27. Nov. 2019

13. Juli 2020

29. Juli 2023

ベルリンの壁崩壊

1989年11月9日の夜、瞬く間に世界中にベルリンの壁が崩壊したニュースが駆け巡った。その時、私はカールスルーエの自宅でラジオの音声でそれを知った。まだそこにはテレビがなかったからである。

ようやくフォルツハイム造形大学での最初のプロジェクト課題も、少しずつ自分のペースを掴みかけて来た頃である。まだ新しく入居したカールスルーエのアパートにはテレビはなく、ニュースなどの



情報は、もっぱらラジオから入手していた。日本から短波放送も受信できるワイドバンドラジオを送ってもらい、ドイツの放送だけでなく、NHK 国際放送やドイツの DW (ドイチェヴェレ) の短波で発信している日本語放送が聴けるからである。特にドイツのニュースを日本語で聴くことのできる DW 放送局の日本語プログラムは私達にとって貴重であった。ただ、この番組は毎日一日中放送している訳ではなく、30 分程度の限られた放送時間だけで、しかもしばしば周波数が変更になるのが問題であった。それは放送ガイドを手に入れることが難しく、放送を毎回聴いていないと周波数変更の情報を聞き逃してしまう可能性があったからだ。海外での様々な問題の中で、ドイツ語が自由に操れない当時の私には、そういった情報収集については大きな問題の一つであった。今のようなIT社会の恩恵を受けられるようになったのは、ほんの数年前ぐらいからなのだ。ちょうどその頃のこと、電気店に注文したテレビの到着を待っていた私達は、にわかにラジオから聞こえてくるニュースの話題がそれまでとは様子が異なっているのに気づいていたが、どうも全てが理解できずにいた。今考えれば、それが歴史的なベルリンの壁崩壊に繋がる直前の東独の動きに関するものであったのだが、当時はこれが何を意味するか理解できずにいたのである。そして月9日の夜、あのベルリンの壁周辺に多くの東ベルリン市民が集まり、国境ゲートが開かれた。私達はその様子をテレビのライブ中継で見ることができず、翌朝一番で近所の売店まで新聞を買いに走ったのである。注文していたテレビは、その数日後我が家に届いた。それでも当時のニュースは、東独関連ばかりで、西側の国境駅からは大量の東独国民を乗せた列車の様子を映し出していた。

このベルリンの壁崩壊については、今ではそれが真実であり東ドイツが西ドイツに吸収されたということも理解できるが、その当時はこのような突然の急激な政情の変化に自身の精神が追いついてゆけないという気持ちであった。何度か東ドイツを訪問した経験からも、この国が無くなってしまうことなど考えられなかったし、もちろんその後のソ連も含めた欧州共産主義諸国の消滅や変化については、少なくとも

も私は想像すらもできなかった。

自動車の購入

フォルツハイム造形大学では、主に講義を行う授業の本校舎と専門的な講義や演習を行う KFZ-Design 校舎が離れていて、徒歩で行き来するのはほぼ不可能である。もちろんバスなど公共交通がない訳ではないが、駅で乗り換える必要があり現実的でない。特に同じ日に本校舎の授業がある時には、KFZ 校舎へ行く場合、同じクラスメイトにお願いしてクルマに同乗してゆく外にはない。それも毎回知人に頼るのは、私自身もクラスメイトにしても気を遣う。学生食堂（メンザ）も本校舎しかなく、本校舎に用事のない日には、本校舎とはまた別の小高い山の上にある経済学部校舎の広々としたメンザに行くことが KFZ 学生の行動パターンであった。

また、カールスルーエから約 30 km離れた大学まで毎日鉄道を使って通学することにもやや問題を感じていた。なぜなら、当時は今のようなSバーンのネットワークがなく、この2つの街を結ぶ列車本数はそれほど多くなかった。もし予定している列車に乗り遅れれば、授業開始に間に合わなくなるところか、授業途中からも出席できないほど遅くなってしまうのである。一度予定の列車に乗れず、次にやってきたEC列車に乗車したらすぐさま検札があり、8ドイツマルクのEC料金を徴収されたこともあった。その点、自動車なら KFZ 校舎には校舎前に駐車場もある上に本校舎や昼食を取る経済学部校舎へ行くにも自身の都合で合わせることが可能だ。

渡独前に国際自動車免許証を用意していた私は、レンタカーを使う際にそれを利用していたが、実はドイツでは正式には国際自動車免許証を使える国ではなく、日本の免許証をドイツ語翻訳したものを携行しなければならない。但し、観光などで短期間の滞在中にレンタカーを借りる時など、翻訳書類を用意するのは利用者にとって難しい面もあることから、世界的に広く使われている国際免許証でもレンタカーを借りることができたのである。私もいよいよホームステイからアパートを借りる身になったことでもあるので、カールスルーエに来てすぐに ADAC（ドイツ自動車連盟）で日本の自動車免許証のドイツ語翻訳を作成した。当時の西ドイツでは日本の免許証からドイツの正規免許証への書き換えは認められておらず、実技試験の免除はあるものの筆記試験受験の必要があった。そのため、まだドイツ語で筆記試験に合格できる自信がなかった私は、暫く日本の自動車免許証とその翻訳で自動車を運転していたのである。



そんな中で通学用に自動車購入を考えた私は、トラムに乗って近くにあるVW（フォルクス・ワーゲン）ディーラーの横にある中古自動車コーナーで実車を物色することにした。実は子供の頃、ポルシェファンだった私は、中古ならポルシェも買えるかも？などと淡い期待を抱いていた。そして1台のポルシェ 924 を見つけた。走行距離は 10 万キロを超えていたが、外観は悪くなく予算の範囲内である。し

かし、一緒にいた（当時同棲中だった）妻からストップが掛かった。いくら長寿命を誇るポルシェとはいえ、10 万キロ超えの中古のクルマにそこそこのお金を払うことに反対する気持ちは私でも十分に理解できる。そこで後ろ髪を引かれつつ整然と並んでいるVWポロやゴルフを眺めていると、とても綺麗な赤いゴルフⅡを見つけた。排気量 1.6 リッターの3ドアハッチバックで、手動ながらサンルーフ付き、走行距離も2万キロに満たない良車。価格も先ほどのポルシェより安価である。これには妻も気に入ったようで試乗後に早速契約し、ほどなくナンバープレートのついた真っ赤なゴルフが我がアパートの前に置かれることとなった。ドイツでは、日本と異なり車庫証明の取得の必要がない。つまり駐車禁止でなければ路上駐車も可能である。私もご多分に漏れずアパートの前に路上駐車をした。幸い、路上駐車をしても盗難などの被害には一度も遭わずに済んだ。

大学の友人

自動車を手に入れたことで、私の行動範囲は飛躍的に広がった。今程ではないにしてもカールスルーエには充実したトラムのネットワークがあり、街の中心商店街のあるカイザー通りや中央駅に行く時にはトラムが便利である。しかし、日本と比較してガソリン代が若干高いものの、無料の高速道路を始め、世界で最も優れた道路を持つ国だけのことはあり、自動車での移動は通学に留まらず、休日のドライブも充分楽しむことができた。鉄道では行くことのできない名所旧跡や、近くの黒い森へのハイキング、美しい自然やそこに点在する村々へのドライブなど、自動車ならではの楽しみを見つけることができた。もちろん、鉄道の撮影についてもそれまで駅での撮影が主だったところから自動車地図を頼りに、自動車でロケハンを行い、良い撮影地を自分の足とクルマで見つける楽しみも増えたのである。

列車の時刻を気にすることもなく 30 km程の道のりをアウトバーンを使って毎日大学へ通うようになり、ようやく自分自身の都合で移動できる自由と時間を手にすることができ、今迄とは逆に友人を同乗させて経済学部のある大学のメンザに行くことも日課となった。そんな時、KFZ校舎の駐車場で、私と同じVWゴルフⅡに乗る学生から「君もゴルフが好きなのかい？」と声を掛けられた。彼のクルマは私と同じゴルフでも上級車種のGTDである。彼と最初はお互いのクルマの話をしてすっかり打ち解けた。彼の名前はクリストフという私より1学期上のドイツ人学生で、自動車デザイナーを目指しているという（もっともこの学科名は自動車デザイン学科なので当たり前であるが…）。彼は、私が日本で自動車会社にデザイナーとして勤め、ここで新たに勉強を始めたことに興味を持ったようである。彼はカールスルーエに実家を持ち、大学の近くにアパートを借りて住んでいる。人懐っこい性格の彼は、それ以来色々と世話を焼いてくれたりした忘れられない友人である。彼からは、友人のドイツ人ペーターとポーランド人トーマスを紹介された。彼らは同級生のウルリケも含めて私の大学生活を支えてくれた学生時代の良き友人達である。

（続く）

（本記事はイカロス出版株式会社発行『鉄道デザイン EX 06 』に連載されたものを転載したものです。同社のご好意により転載の許可をいただいています。）

ドイツ大使館主催 絵画コンテスト「わたしのドイツ」

日本の子どもたちに、ドイツに興味を持ってもらうきっかけになってくれればとの思いで始まったドイツ大使館主催の絵画コンテスト「わたしのドイツ」も今年 16 回目を迎えます。

たくさんの県内の小、中学生が応募してくださっています。去年は小学校の部で全国 3 位の入賞を果たす作品も出ました。それぞれがイメージするとても素敵なドイツが描かれていました。今年もたくさんの楽しい作品をお待ちしています。



今年のテーマ: 「ドキドキドイツ」

締め切り: 2023年 9 月8日(金)

資格: 日本に住んでいる小学生・中学生のみなさん
(グループ作品も OK)

応募方法その他は下記ホームページを参照ください。

<https://Japan.diplo.de/ja-ja/vertretungen/botschaft/-/2352936>

(公財)日独協会(東京)の行事予定

(対面の記載のないものはオンラインで参加可能なもの)

1. (対面)会員懇談会サロン

テーマ「我が懐かしき青春の日々」～ドイツ語文化圏に存在する学生組合～

日時: 9 月 11 日(月) 18:00～19:30

会場: 日独協会事務所内セミナールーム

講師: 植松健氏(千葉県日独協会常務理事 香川県日独協会理事)

2. ドイツ時事問題研究会

日時: 9 月 16 日(土) 15:00～17:00

テーマ: 毎回参加者の提案をもとに次回のテーマ(複数可)を決定

事前にメールで参加申し込みをいただいた方に世話人から「招待」メールをお送りします。

3. Sprachtreff(シュプラッツハットレッフ)

オンラインで開催している語学交換会です。レベルごとに少人数のグループに分かれて日本語とドイツ語で 40 分程度ずつおしゃべりをします。

日時: 9 月 16 日(土) 19:00～20:40

会費: (公財)日独協会員は:無料 / 一般: 2,000 円 定員 40 名

参加条件：語学交換を積極的に楽しみたい方（目安レベル：A1.2 以上）

4. 独逸塾：「ドイツのニュースを楽しむ会」

日時：9月18日（月・祝） 19:00～21:00

会費：無料

内容：ドイツのニュースを取り上げ、読むだけでなく、背景となるドイツ事情を学ぶ独逸塾。

独逸語文法初級文法を一通り終えた方向きで「お試し参加」、聴講のみも可能です。

千葉日独協会の行事予定

1. オンライン講演会

日時：10月15日（日）か10月29日（日） 18:00～

講師：東京女子大 柳原伸洋教授（現代教養学部人文学科歴史文化専攻

研究分野：ドイツ・ヨーロッパ近現代史）

2. オンライン ドイツ語講習会

日時：10月7日スタート 14日、28日、11月11日、25日、12月9日、23日

時間は 19:30～21:00

参加費：会員3,500円、学生2,000円、一般4,000円

教材：Reiner Kunze 「Der Drachen Jakob」

3. (対面)ドイツ軍人慰霊祭

日時：11月5日（日） 11:00～

会場：習志野霊園

来賓：ドイツ大使館武官 ラルフ・ペルズィツケ空軍大佐

フォン・ゲッツェ大使

ドイツ戦力基盤軍 マーチン・シェライス総監

横浜日独協会の行事予定

1. オンライン講演会

日時：9月16日（土） 15:00～16:30

講師：中島厚志氏（新潟県立大学国際経済学部教授）

演題：「ウクライナ危機後の欧州経済について」

※以上の項目に関心があり、参加希望の方は、まずぐんま日独協会事務局へご連絡ください。

ぐんま日独協会事務局：メール：info@jdg-gunma.jp

電話：027-288-4297（鈴木方）



**** ホームページ ****

<https://www.jdg-gunma.jp/>

ぐんま日独協会のホームページでは、ドイツサロン、ドイツ語ニュースを聞く会など
今後のスケジュールを確認したり、ドイツフェスティバルのパネル展示をはじめ
ドイツサロンなど会の活動の記録、ハイマートのバックナンバーなどを閲覧できます。
どうぞご活用ください。



**** Facebook ****

<https://www.facebook.com/JDGGunma>

ぐんま日独協会の Facebook では、
協会の話題に加えてドイツ大使館や日独ユースネットワークなどが
発信するコンテンツも掲載されています。



**** Instagram ****

<https://www.instagram.com/JDGGunma/?ref=badge>

ぐんま日独協会の Instagram ご存じですか？
協会の活動やドイツに関する情報など、新たな情報発信ツールとして、
アップしていきたいと思います。



編集後記

皆様 残暑が続く日々ですが、いかがお過ごしですか。本号は先日亡くなりました對馬良一副会長
島田卓爾副会長の会員による追悼文を掲載いたしました。また沼田市、草津町の姉妹都市友好イベ
ントの紹介や連載記事等を含め多彩な内容になりました。

私事になりますが、對馬さんの思い出として 4 年ほど前のドイツサロンの席でチャメツケたつぷりに
話しながら、シュナップスの小瓶をいただいた元気な頃の姿を思い浮かべます。私はそれを私の机に
ドイツの一品として飾っております。

島田さんとの思い出は、私の埼玉時代支援した児童養護施設の理事長が、子持山学園の理事長
であった島田さんと交際があったと同氏から聞きました。懐かしいことでありました。

改めてお二人のご冥福をお祈りいたします。

会員の皆様の更なるご健勝を祈念し編集後記といたします。有難うございました。(Y)

